

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570207779		
法人名	有限会社せせらぎ		
事業所名	グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)		
所在地	能代市落合字下谷地251-6		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成29年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治会に加入している。新年会、総会、清掃活動、盆踊りに参加。子ども会の七夕来訪、老人クラブの運営推進会議への参加など地域との交流を深めている。また関連施設合同の秋の運動会を家族、ボランティア、民生委員の参加により毎年150人規模で交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣住民との関わりが密なものとなっており、優れた取組をしている。また、系列の他事業所との協働によるイベントや研修の開催も効果的なものとなっている。施設内は臭いもほとんどせず、2ユニットそれぞれポータブルトイレを使用している利用者もおらず、適切な排泄ケアがなされており、また施設内も清掃が行き届き、清潔感のある環境の中で利用者は安心して過ごすことができています。

職場環境としても、職員同士がよく意見交換を行い、職員からも「楽しい職場である」との声も聞かれ笑顔も見られた。利用者および職員が、笑顔を大切にしながら楽しく生活していくことができることが伺え、利用者および家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念、ホーム理念を玄関に掲げ職員全員意識し実践につなげている。	2ユニットそれぞれで職員が「笑顔」「寄り添い、絆、大切に」との理念を設定し取り組んでいる。毎年度、ホームの職員による話し合いでこの理念は設定し、活動していることを確認した。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており清掃活動、定期的な集会等には積極的に参加している。盆踊りや子供七夕の行事にも声をかけてもらっており老人クラブや近隣の方々とも顔なじみである。	自治会の集まりに参加し、清掃活動や盆踊りなどの行事にも積極的に参加しているほか、防災訓練においても近隣住民の協力を得ながら取り組んでいることを確認した。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	自治会長、老人クラブ会長の運営推進会議への参加、交流などにより話し合いを持っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの活動状況を報告意見を聞きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催され、地域住民及び市町村担当者から意見を拾い上げ、サービス向上に活かすよう努めている。しかしながら、ホームとしても現状の会議形態のままではマンネリ化していかないかとの危惧も感じているとの意見があった。	マンネリ化について危惧していることは素晴らしい気づきである。今後、会議テーマの設定や会議開催の場所、会議とイベントのコラボレーションなど、より地域住民の幅広い意見を拾い上げられるような会議運営のあり方について期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員1名参加していただいている。相談事項があった際には直接出向いて指導を受けサービス向上に活かしている。	運営推進会議について市の担当課職員が参加してくれ、意見も聴取できており、協力関係を築くよう努めている。地域包括支援センターが市直営から委託に変更になる時期における連携のあり方についても検討されていた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関にセンサーを取り付けており施錠をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしている事例はなく、マニュアルも整備されている。高齢者の行動の自由を制限することなく、寄り添うケアの提供に努めていることが確認できた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行っている。職員会議でも話し合いの場をもち見過ごされることがないように注意している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員はその必要性を認識しているが家族は自立支援事業、成年後見制度などの関心が薄い状態であり必要な人には活用できるよう支援する事ができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する時には利用者や家族などに契約内容を再度説明し不安や疑問点を聞かれた時には十分な説明をし理解、納得を図るよう勤めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情処理箱を設置している。要望、意見があった場合職員会議などで話し合い運営に反映させているまた外部者へ表せる機会を設けている。	家族への情報提供については、遠方で面会が困難な方には書面で利用者の活動状況を伝えていた。また、入居者への聞き取りによる満足度調査も行いながら、意見を拾い上げられるよう努めていることを確認した。家族会も年に1回開催されている。	ケアプラン実施過程の各段階における利用者および家族の参画のあり方については、より効果的な取組みを築いていくことができ、またホーム全体の運営にも反映させられると思われるため、取組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において職員の意見や提案などを聞いている。管理者会議において伝え情報共有し、利用者のサービス向上に努めている。	毎月1回定期的に開催される職員会議ならびにカンファレンスには原則すべての職員が参加し、運営に関する情報伝達のほか、職員からの意見もくみ上げながら運営に反映させるよう取り組んでいることを確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績勤務状況を把握している。職員に対して感謝の気持ちを伝え向上心を持って前向きに働ける環境整備、状件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を実施している。研修参加者が職員会議で講師役となり職員全体で学ぶ機会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流する機会があり情報交換などしサービスの質を向上させる取り組みをしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に安心して過ごしていただけるよう不安や要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から不安や要望などに耳を傾け信頼関係を築いている。気軽に相談できるような関係作りに勤めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見つけ職員と一緒にやっている。終わったあとは労いの言葉をかけ対応、支えあう関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を頻回とし一緒に本人を支える関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は本人と一緒に食材の買い物に出かけたりし馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	馴染みの人や場との関わりが、認知症高齢者にとってどのような影響があるのかをよく理解しており、美容院などへの外出対応などが利用者個別のニーズに応じて提供されていることを確認した。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しており孤立せず係わり合いを持つよう職員が中に入って支えあうよう支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了(契約)しても介護などの相談に応じており、関係を断ち切らないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活リズム、習慣を把握し集団生活の中でも利用者本位になるようサービス提供に努めている。利用者に対し満足度アンケートを実施し意向の把握に血止めている。	アセスメントから想いを把握していけるよう、利用者個別の状況把握に努めている。利用者本人への聞き取りによる満足度調査も実施しており、本人本位のサービス提供となるよう検討していることを確認した。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から今までの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがいなどを聞き把握することに努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一日の過ごし方心身状態の把握に努めており変化があった場合は情報共有することとしている。本人の有する力が発揮できるよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意見、要望等を職員会議やカンファレンスで話し合い、意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	課題分析ならびにケアプラン立案に対して、月1回のカンファレンスにおいて職員からの意見も踏まえ介護計画を作成していることを確認した。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスの際に話し合われた意見やアイデアを参考にしながらモニタリングし課題の見直しを行い介護計画を作成している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子ども会、老人会、自治会、民生委員、介護自習生の受け入れなどで地域資源を活用し支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局などとの事業所の関係は良好で、本人及び家族の納得をえられており適切な医療を受けられるよう支援している。	本人及び家族の希望を組んで、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局との連携を図りながら、本人にとって適切な医療サービスが提供されるよう取り組んでいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと医療連携体制を取っている。月2回の訪問時には日常的にきずいたことは報告し相談しながら健康管理の支援をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したときは医療連携室担当者、担当看護師及び家族との関係を密にし情報交換や相談に応じて安心して治療ができるよう支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については早い段階から本人や家族などと話し合っている。そのことは職員全体で方針を共有し地域関係者と共に支援に取り組んでいる。	重度化や看取りについては、本人及び家族の意見をくみ取りながら話し合っていた。訪問診療に来てくれる医師の確保などの課題を整理しながら、可能な限り意向に沿った支援を提供すべく努めていることが確認できた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え職員は救急救命を受講している。定期的に確認を行って実践につなげている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練は防火訓練時に実施し避難訓練場所は事業所の関連敷地が広く確保され地域住民の一員として協力が得られるよう勤めている。	発電機なども用意され、また訓練に際しても近隣住民の参加協力を得たり、ハザードマップを確認したりしながら適切に実施されていた。管理者の消防団員としての活動が運営に活かされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしておらずプライバシーの確保は徹底されている。	ホームの企業理念と同様に、一人ひとりに対しての関わり方について掲示しており、ホームが目指す接し方が明確であるとともに、利用者本位の接し方を行っていることを確認した。また、プライバシーについても、のれんの活用など配慮されていることを確認した。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がその人らしい思いや希望が表せるように働きかけ共同生活の中で納得しながら暮らせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にその日の希望を取り入れた支援をしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の意見も聞きながら利用者の好みや季節に合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で職員と一緒に準備やかたづけを行っている。また誕生日には希望を取り入れたメニューを作成している。	調理品の下ごしらえ、配膳、下膳など本人の能力に応じ食事を楽しめるよう取り組んでいる。また、誕生日に際しては本人の希望を取り入れ、メニュー作成していることを確認した。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食べる量や栄養バランス、カロリー、水分量が確保されているか把握し利用者の状態や力量、習慣に応じた支援を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔保持のため、毎食後声かけにより口腔ケアを行っている。夕食後は毎日入れ歯洗浄剤に漬けて清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握している。声かけでトイレ誘導することによりオムツに頼らない自立に向けた支援を行っている。	本人の排泄パターンを把握しながら適切なタイミングで排泄介助しているため、ポータブルトイレを使用している人がいない状況であり、自立支援に資する排泄介護を提供していることを確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘原因や及ぼす原因をよく理解し、飲食物、水分補給や適度な運動を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望、状況に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	原則として一人当たり最低週2回入浴できるよう援助している。また、希望があれば入浴の機会を設け援助しているほか、状況に合せ入浴時間も柔軟に対応していることを確認した。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとり生活習慣や日々の状況に応じて安心して気持ちよく休息したり眠れるようかかりつけ医とも相談しながら支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成しており、薬の目的や副作用などについて理解している。また変更があった場合には速やかに周知している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に出来る範囲内で役割を持っていただき生活歴や経験を活かせるよう支援している。水分補給時には本人が好む物を飲めるようにしている。ドライブ散歩などで気分転換をはかっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、他施設訪問、買い物などに誘ったりと戸外に出かける機会を多く持てるよう支援している。	外出の機会も努めて確保しており、近隣の散歩以外の外出支援にも取り組んでいる。また、系列の他事業所や同敷地内にあるショートステイ事業所とも連携しながら、ホーム内だけで生活が完結しないよう、外出時の利用者の表情に注意し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持ち大切さは理解しているが家族の希望で利用者にはもたせておらずホームで管理している。その中の一部を本人が持参し職員同伴で買い物に出かけている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人からの電話の取次ぎや利用者が電話をしたい時は希望に沿い支援している。また手紙のやり取りも出来るように支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には利用者と職員が一緒に作成した季節感が味わえる飾り物を貼り、行事の写真も貼っている。共有空間は掃除、消毒を行い不快がなく居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。	居室はもちろん共用空間も冷暖房が完備されており、また臭いもほとんどなく、居心地の良い生活環境が整えられている。リビングから見える庭も季節感が感じられる造りとなっており、季節の移り変わりも眺めながら過ごせるようになっていることを確認した。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には利用者同士が思いおもいに過ごせるようにソファがありテレビも見たり新聞を読んだりしながら自由に過ごせるような居場所の工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅中に使用していた馴染みの物を使用している。利用者個々の認知状況、ADLに合わせた居室作りになっている。	居室内は冷暖房が完備され、また自宅から使い慣れたものを持参したり、家族の写真を持参・掲示するなどしていた。また、ある利用者の居室は、机とイスを用意し、勉強できるような形に整えられていた。このことから本人にとって安心して過ごせるよう工夫されていることを確認した。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が毎日生き生き生活出来るよう十分な観察をし会話の中から本人のニーズを聞き出し対応している。		